

平成 28 年度 記者懇談会（第 3 回）の記録

日 時 平成 28 年 6 月 30 日（木）午後 3 時 30 分

場 所 水道庁舎 4 階 会議室

記者数 8 人

同席者 阿部副市長、天野副市長、総務部長、経済部長、建設部長、
環境保全課長

- 次 第
- 1 平成 28 年度姉妹都市交流事業の実施について
 - 2 平成 28 年度いわみざわ環境週間について
 - 3 2016 いわみざわ彩花まつりについて
 - 4 木造住宅耐震改修等助成事業について
 - 5 その他について



1 平成 28 年度姉妹都市交流事業の実施について

説明内容

(市長)

まず 1 点目は「姉妹都市交流事業」の実施についてでございます。

ご案内のとおり、アイダホ州ポカテロ市、オレゴン州キャンビー市との姉妹都市交流の経緯につきましては、お手元の資料 1 にまとめてありますので、そちらをご覧ください。

それでは、資料 2 をご覧いただき、ポカテロ市からの訪問団の受入について説明をさせていただきます。期間は 7 月 3 日の日曜日から 7 月 18 日月曜日、祝日でございますけれども、18 日までの 16 日間、訪問団の人数は、高校生 11 名と団長の夫妻 2 名の合計 13 名で来岩する予定となっております。現地時間の 7 月 2 日にポカテロ市を出発し、翌 3 日の午後 7 時 45 分に新千歳空港に到着。その日は、メープルロジに宿泊の予定でございます。

4 日から市内での交流事業が始まりまして、表敬訪問、ホストファミリーとの対面式を行い、4 日の 18 時から市主催の歓迎会を行う予定でございます。週末 8 日には彩花まつりでの観光踊りパレードにも参加をしていただく予定としております。帰国をする 18 日までの間、市内の学校訪問を中心に、市内の観光スポットや地域おこし推進員が企画をした東部丘陵地域の訪問、また、各国際交流団体が主催する日本文化の体験などの行事に参加する予定でございます。お別れ会は帰国の前日であります 17 日、日曜日に開催する予定となっております。

また、岩見沢市の滞在中は、市内 12 組のご家庭にホームステイをしていただくこととなります。平日の夕方以降や土日祝日についてはステイ先のご家庭との交流が中心となります。

続きまして、岩見沢市からの派遣事業についてでございます。

まず、ポカテロ市への派遣でございますが、期間は 7 月 26 日の火曜日から 8 月 10 日水曜日までの 16 日間を予定しております。訪問団の構成は高校生が 7 名、中学生が 3 名、引率する女性団長を加え合計 11 名でポカテロ市を訪問いたします。団員の男女別では男性 2 名、女性 8 名となっているところでございます。

なお、今年の団長は健康福祉部保護課の川村真以さん、31 歳でございます。

ポカテロ市滞在中は、ポカテロ市での歓迎会、市内見学、各種団体等との交流行事等に参加をし、その後、サンフランシスコに移動いたしまして、サンフランシスコでは市内見学の他、サンフランシスコ在住の北海道出身者やその家族で構成いたします、北カリフォルニアどさんこ会の役員の方々と懇親会に参加し、8 月 10 日夕刻に日本に帰国する予定となっております。

次に、キャンビー市への派遣でございますが、期間は同じ 7 月の 26 日火曜日から 8 月の 5 日金曜日までの 11 日間となります。訪問団の構成は高校生が 2 名、中学生が 3 名、引率する男性団長を加え合計 6 名でキャンビー市を訪問いたします。団員の男女別では男性が 3 名、女性が 2 名となったところでございます。

なお、キャンビー市への今年の団長は企画財政部財政課の佐々木拓也さん、29歳となっております。

キャンビー市滞在中は、歓迎会、市内見学、各種団体等との交流行事に参加し、8月5日夕刻に日本へ帰国をいたします。

訪問団員の皆さんは、訪問団説明会や英会話教室等の準備を経て、岩見沢市の代表としてポカテロ市・キャンビー市へ出発をいたします。姉妹都市双方にとりまして、実り多い交流事業となることを期待しているところでございます。

最後になりますが、今年の新たな試みとして、「姉妹都市交流週間」を設定いたします。

昨年、姉妹都市提携30周年という節目を迎え、私もポカテロ市を訪問してまいりましたが、今後も良好な姉妹都市交流を継続していくにあたり、市民の皆様により関心を持っていただきたいとの思いから、「姉妹都市交流週間」を設定することといたしました。

今後、市のホームページや国際交流のフェイスブックなどでPRを行い、市民の皆様が訪問団員の皆様との交流を深めるきっかけになればと考えているところでございます。

以上でございます。

質疑応答

(プレス空知)

最後に説明のあった交流週間の関係なんですけれども、ホームページやフェイスブックでPRする予定となっておりますが、具体的に何か事業をやることはあるのでしょうか。

(市長)

いえ、姉妹都市交流週間とすることで、具体的に何かをするということではありません。より市民の皆さまに親しく交流していただくことを願って位置づけました。また、そういう週間と位置付けて例年行うことによって、姉妹都市交流の意義をあらためて再確認する、そんな機会にしたいなとも思っています。

(プレス空知)

15日に予定している東部丘陵地域見学なんですけれども、これは地域おこし推進員の方がナビゲートしてやると思うのですが、エリアが広いので例えばこんな所を案内するんですという予定があれば教えてください。

(市長)

詳細についてはわかりましたらお知らせするようにいたします。

2 平成 28 年度いわみざわ環境週間について

説明内容

(市長)

それでは、本年の「いわみざわ環境週間」についてご説明をさせていただきます。

「いわみざわ環境週間」は、平成 20 年 7 月の北海道洞爺湖サミットを契機に設けたものでございます。本年で 9 年目を迎え、7 月 1 日金曜日から 7 月 7 日木曜日まで開催をいたします。

この環境週間では、地球温暖化対策、循環型社会の構築、生物多様性の保全などに向けて、様々なイベントと啓発活動を通じて、環境にやさしい社会づくりに向けまして、市民一人一人の意識の醸成や活動につなげてまいりたいと考えています。

最初に、「環境展」でございますが、期間中、市役所ロビーをはじめ、北村支所、栗沢支所の 3 か所に地球温暖化対策などのパネルを展示をいたします。また、ごみ・環境総合案内所クリーンエコでは、ごみ減量化の各種展示を行う予定でございます。

次に、2 日の土曜日には、環境週間のメイン行事であります、「環境フェスタ」をイベントホール赤れんがにおいて開催をいたします。自転車をはじめとする大型リサイクル品の販売やごみの分別・減量化についての各種展示を行います。また、子どもさん向けの催しとして、水風船キャッチゲームや緑陵高校の生徒によるゴミ分別ゲームを行います。さらに、環境フェスタと同時開催で「岩見沢ハイ！元気プロジェクト」主催のまちなかマーケットを同会場にて開催し、フリーマーケットやステージ発表などを実施をいたします。なお、当日は、アンケートの回答者に花苗又はマイバッグのプレゼントを行うほか、午後 2 時から岩見沢農業高校環境造園科の生徒が育てられたアサガオを配布いたします。

7 日木曜日には 1 条から 4 条の中央通りから駅前通りまでの歩道を清掃する、「まちなか環境美化活動」を環境週間イベントの締めくくりとして実施をすることとしております。

最後に、「いわみざわ環境美化の日」でございますが、市内の事業所や町内会に身の回り美化運動を呼びかけ、6 月 24 日金曜日から 7 月 21 日木曜日までの間にごみ拾いや植栽などの美化活動にご協力いただくこととしております。

以上でございます。

質疑応答

(プレス空知)

去年この期間にごみの中間処理施設「いわ☆ぴか」の見学というのもやっていたと思うのですが、4 月からもそうなんですが、この環境週間においても位置づけがないのはどういうことなのか。また、中学校の制服のリユースコーナを新設した意図は何か教えていただけませんかというところです。それと、家具のリサイクルはないのかなど、もし無いのであれば収集と回収の関連があるのか、その 3 つについてお願いします。

(市長)

まず「いわ☆ぴか」の見学については、環境週間と関係なく年中受け付けて実施をしているものですから、もちろん環境週間に併せてご希望があれば是非実施をさせていただきたいというふうに思います。家具はそんなに数は出ないんですけども、今年も家具の販売はやります。それから、制服のリユース、これはそういった希望が多いということと、確か民間の方がなさっていた方でもご好評ということで、この週間の中でということ。昔、広報でも制服を譲りますというコーナーもかつて掲載していたこともあったんですが、資源のリサイクルということでご活用いただけるということであれば、結構かなというふうに思います。

3 2016 いわみざわ彩花まつりについて

説明内容

(市長)

今年の「いわみざわ彩花まつり」についてご説明をさせていただきます。

岩見沢市の五大祭りの一つであります「2016 いわみざわ彩花まつり」を7月4日（日）から10日（日）までの1週間にわたり、岩見沢市観光協会が主催となりまして、あやめ公園、バラ園、市民駅東市民広場、イベントホール赤れんがなどにおいて開催をいたします。

期間中の主な内容を申し上げますと、あやめ公園では、168種12,000株のあやめや花菖蒲を観賞することができます。いわみざわ公園バラ園においては、630種8,800株のバラを楽しむことができます。10日日曜日の午前11時からバラ園におきましては、野だて及び箏曲の演奏も予定しているところでございます。

市内の中心市街地を会場といたします「観光踊りパレード」は、7月8日（金）曜日の午後6時25分から開会式が行われまして、その後パレードの実施をいたします。現在のところ26チーム1,075名が参加というふうにお聞きをしております。

土曜・日曜日のイベントといたしましては、人気トップパフォーマーによるブルーショーや似顔絵ショー、ふれあい動物園などを開催し、子どもたちにも楽しんでいただけるようなものとなっているところでございます。

また、10日日曜日の午後8時から、北海道グリーンランド遊園地を会場といたしまして約3,000発の「花火大会」を予定しております。当日は、北海道グリーンランド遊園地さんのご協力により、岩見沢市民の方は入園料が無料、午後4時から市外の方も入園無料となっており、多くの方に打ち上げ花火を楽しんでいただきたいと思っております。

昨年の彩花まつりには、約15万700人の方々が来場をいただきました。今年も天候に恵まれ、多くの方々にお楽しみいただきたいと思いますと思っております。

さらに、彩花まつりに先立ちまして、花のイベントと致しまして、今年もいわみざわ公園バラ園において、「いわみざわローズフェスタ 2016」が6月25日（土）曜日から開催されております。この後も、7月10日まで開催される予定でございます。

イベントの主角といたしましてはもちろんバラでございますが、そのバラを日頃育てていただいているバラ園のスタッフが、直接園内を案内しながら、この岩見沢のバラ園にしかない希少な品種やバラの名前に込められた思いやエピソードを紹介しながらガイドする「ローズツアー」のほか、来園された皆さんの投票で一番人気を決めたり、ウォークラリーやスタンプラリーを行ったり、ガーデニング用品の販売など、楽しめる催しも行うこととなっております。

是非、ちょうど一番花が咲き揃った見ごろでございます、バラ園が一番輝く今こそ、多くの方々にリニューアルされました「北国のバラ園」いわみざわ公園バラ園にお越しいただければと願っているところでございます。
以上でございます。

質疑応答

なし。

4 木造住宅耐震改修等助成事業について

それでは、「木造住宅耐震改修等助成事業」についてご説明をいたします。

この事業は、本年4月14日に発生をいたしました熊本地震を受けて、岩見沢市といたしましても、熊本と同様な活断層による地震災害が懸念されることもあり、旧耐震基準となる昭和56年5月31日以前に着工された木造住宅の耐震診断、さらに耐震改修を行う建物所有者に対しまして、その費用の一部を助成することにより、木造住宅の耐震化の促進を図り、地震に強いまちづくりと、市民の安全と安心を守ることを目的といたしまして、新たに助成事業を創設したところでございます。

助成内容につきましては、木造の戸建て住宅のほか、併用住宅や長屋建て、共同住宅も対象といたしまして、耐震診断を行う場合には、その診断に要する費用の80%、上限額は4万円を助成をいたします。また、耐震改修を行う場合には、その耐震改修工事に要する費用の40%、上限は100万円を助成するものでございます。

なお、平成28年度のプレミアム建設券との併用も可能とすることも検討してまいりましたが、既にプレミアム建設券が完売となっていることから、今年度につきましては、耐震改修工事を行う場合の特例措置といたしまして、当該建設券のプレミアム相当額、上限は15万円でございますが、それを加算することといたしました。

当市といたしましては、旧耐震基準の住宅をお持ちで、これまで耐震改修工事を考えてこられなかった市民の方々に、まずは耐震診断を行っていただき、現在の家屋の状態ですどれだけの耐震性能があるのかを把握することにより、住宅の耐震化への意識を高めていただき、その後の、耐震改修工事を行うきっかけになることも期待をしている所でもございます。

次に、事業のPRでございますが、7月に岩見沢市内の建築士事務所協会、これは一般社団法人北海道建築士事務所協会空知支部の皆様や、岩見沢建設協会などの関係団体を通じて会員企業に周知を行うこととしております。また、広報いわみざわ8月号、あるいは市のホームページに掲載したり、建築課の窓口にリーフレットを設置し

たりするほか、皆様にもご協力をいただきながらPRに努め、8月1日から受付を開始してまいりたいと考えております。

また、北海道、道庁が全道14か所で予定をしております市民向けの「住宅の耐震セミナー」が、8月9日に空知総合振興局で開催されることになっておりまして、その中でも、この助成事業の案内をさせていただくこととしております。

以上でございます。

質疑応答

(北海道新聞)

併用住宅というのは店舗兼住宅ということですか。

(市長)

そういうことですね。

(北海道新聞)

道も同様の耐震診断の補助をされているようですけれども、そこでの整合性はどうか。

(建設部長)

道の耐震診断につきましては、前提といたしまして図面がきちんと用意されていること、机上の診断になるということです。岩見沢市の耐震診断については現地を確認することも含まれております。

(市長)

道の耐震診断は確認申請等との書類がきちっと揃ったもので、それを机上で診断するというので、無料でやります。私どもはその図面が無い場合も想定をして、実際に住宅を調査した上で診断する場合の経費が概ね5万円程度であろうということで、その80%の4万円を上限額として助成することといたしました。

(読売新聞)

この対象となる木造住宅は何戸くらいあるのですか。

(市長)

推計なんですけど、今年1月現在の戸数を前提として、先ほど申し上げた昭和56年の5月31日以前に着工された件数ということで、推計しているのが戸建て約9,900戸、共同住宅で約250戸というふうに推計をしているところでございます。市内の総家屋数は全体で40,560戸になるわけですが。ただ56年の5月31日以前に着工されたからといって実際にその耐震性能を満たしていないかどうかというのは詳しくは調査しなければわからない。あるいは机上で判定しなければならないということになります。

(プレス空知)

ちなみに今の40,560戸というのは戸建てと共同を含めての話ですか。

(市長)

そうです。正確に申し上げますと、固定資産の家屋データですけれども、戸建てが27,674戸、そのうち昭和56年5月31日以前に着工された戸建ての住宅が9,939戸、戸建て以外の共同住宅等という数字になりますけれども、市内全体で12,88

6戸、そのうち250戸であろうと推計しております。全体では40,560戸のうち、10,189戸の約25%が該当するのではないかと、該当というよりは対象マックスと言いますか。

(プレス空知)

プレミアム建設券相当分を加算というのは、上限で耐震改修を計画している場合、115万円分の助成を受けることが可能ということになりますか。

(市長)

実際は工事金額にもよりますけれども、工事金額250万円を想定して100万円を設定しているんですけれども、もともとプレミアム建設券の併用可ということで制度設計をしていたんですけれども、先ほどお話したとおり既に完売という状況でございますので、今年度の特例措置としてそれ見合いの、仮にプレミアム建設券を併用したとした場合に付くプレミアム分について助成額を加算するというようなこととなります。

(プレス空知)

この加算分というのは、補正で計上していた分から充当していくということになりますか。

(市長)

そのようになります。補正で計上した全体額で1,700万円だと思いますが、その金額の中からということになります。

(毎日新聞)

この助成事業というのは、過去にやったことはあるのですか。

(市長)

岩見沢市は過去に住宅リフォーム事業ですとか、安心住まいづくり事業ということで、平成19年からいくつか制度は変わっていますが、平成26年まで耐震改修の助成の措置をとってきたところです。ただ平成27年についてはプレミアム建設券を発行したので、それで利用ができますということで、助成措置についてはプレミアム建設券に取り換えた形で耐震改修もオッケーですということでやってまいりました。ただ今回独自のプレミアム建設券の発行と、従いまして昔やっていた助成制度が一回無くなっておりますので、今回新たにこれを作り直したということです。

(毎日新聞)

過去19年からやってきた助成にどれくらい応募があったんですか。

(市長)

期間中で確か報告を受けているのが、6件です。これは全道的にも実際の耐震改修の実施件数というのは低いんですね。

(毎日新聞)

56年以前というと実際に空き家になっているところも多いのではないですか。居住しているのが9,900戸なんですかね。

(市長)

家屋データなので居住している、していないというのは別の数字だと思います。今回の耐震改修については市外の所有者の方もこの助成措置については対象になります。

ただプレミアム建設券助成加算分については市内の方でないと対象にならないという事です。

(毎日新聞)

逆に19年からずっとやってきて6件しか応募が無いということで、さらに加速するためにインセンティブなものが含まれているのですね。

(市長)

それで助成を引き上げたのです。

(建設部長)

助成率を20%から40%に引き上げました。

(毎日新聞)

あと、公共施設というか本庁舎も含めてどう進んでいますか。

(市長)

市の施設については耐震化を進めてきております。特に学校の教育施設については今、中央上学校が解決できれば学校教育施設については全て耐震改修を終えていると。主な公共施設の中で耐震性に疑問の付くのはこの本庁舎くらいですかね。

5 その他について（記者からの質問）

質疑応答

なし。

(注) 記録の内容については、重複した言葉遣いや、明らかな言い直しがあったものなどを整理した上で作成しています。(作成：岩見沢市秘書課広報係)